

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマツト・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 Aユニット		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和3年年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouId=2392400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が落ち着いて生活できるように何気ない会話をしたりレクリエーションを通して生活をしています。
 。今年もコロナウィルスの為外出レクは行えませんでした。室内レクで利用者が楽しめて満足できるようにゲームや体操、歌を唄って発散しています。また美味しい料理を召し上がり喜ばれています。常に体調の変化に気を付けて医療と連携をして健康維持に努めています。Aユニットの入居様が料理(ケーキ、お好み焼き等を実際にご自分で作って楽しんでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜で有名な刈宿公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が位置している。デイサービスが1階に併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。会社の理念、思いやりの三要素「目配り・気配り・心配り」を事務所に掲示し、理念を基に事業所の目標を「思いやり」として職員は入居者がいつも笑顔でいられるよう日々のケアに努めている。平常であれば、盆踊りや山車祭りに参加したり朝市や憩いの家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流したり、事業所の夏祭りにはゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事にも参加する機会としているが、コロナ禍で自粛している。また、高校生の体験学習や専門学校生の実習も受け入れ教育の場の提供をしているが踏みとどまっている。現在はコロナの感染状況を確認しつつ再開を望んでいる。調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の家事を職員と一緒に楽しみながら行っている。明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームをしたり談笑をして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHで理念は決めている。利用者様を「思いやり」をもって接する。	会社の理念、思いやりの三要素「目配り・気配り・心配り」を事務所に掲示し、理念を基に事業所の目標を「思いやり」として職員は入居者がいつも笑顔でいられるよう日々のケアに努めている。コロナ感染対策を掻い潜り発症した方の看護体験を通して、今まで以上に職員の結束が高まり、職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちや思いやりを持って接することを実践した。	事業所の目標として「思いやり」を掲げ、入居者に接するよう心掛けているが、実体験をしたからこそ、今一度、三要素の「目配り・気配り・心配り」の心遣いについて職員で話し合い、より具体的な目標を設定し、ケアの中で活かしていくことを願いたい。また、年度ごとに目標について検討し、理念に近づけていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回もコロナの為に交流は行っていない。	町内会には加入していないが、民生委員や憩いの家のサロン、地域の新聞等で情報を得ている。盆踊りや山車祭りに参加したり、朝市や憩いの家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流しているが、コロナ禍で自粛している。平常であれば、事業所の夏祭りに地域ボランティアの協力を得たり、ゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事にも参加している。また、高校生の体験学習や専門学校生の実習も、踏みとどまっている。現在はコロナの感染状況を確認しつつ再開を望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協の協力で地域の高齢施設紹介を行っている。ホームページで紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っていないので状況をお伝えし家族の意見を確認して改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。	コロナ禍により書面開催として2か月に1回開催している。事業所の運営状況や活動内容、事故報告、感染予防対策等の報告をまとめ、議事録として入居者家族や民生委員、市や地域包括支援センターの職員に意見聴取のための返信用葉書を同封し送付している。いただいた葉書には事業所のコロナ対策に対する理解の言葉や職員に対する励ましや、ねぎらいの言葉などが寄せられ職員の励みとなり、サービスの向上にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。	通常は、運営推進会議に市の担当者が毎回出席し、情報やアドバイスを得ている。担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務等で訪れた際、事業所の取り組みなどを伝え、情報交換をしたりアドバイスや指導を受けるなど、良好な協力関係を築いている。職員が市主催の研修会に参加できるよう案内を掲示している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて施設の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを職員に周知し、身体拘束適正化委員会を3か月に1回行っている。また、アンケート方式で自己チェックすることにより自己のレベルに気づき、注意すべきことを明確にして拘束に対する意識を高め、職員間の認識の共有を図っている。スピーチロックには特に留意し、入居者一人ひとりの、その日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて施設の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人については利用者様の中で該当される方がいらっしゃる。検討している。またわからない方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているので注意する点があれば職員に周知を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望(はがき等)を職員に報告をして反映する様にしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録し全職員が共有してケアに繋げている。家族とはコロナ禍によりこまめに電話で話をすることが多くなっている。また、運営推進会議の返信書や衣類の受け渡し時、面会時などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。毎月各ユニットごとに、入居者の日常の様子の写真やコメントの入った新聞を発行し家族には安心感を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が時々支援に入り職員の意見に対して提案をしている。	日々の業務の中や申し送り時、ユニット会議やグループホーム会議、などで職員からの意見や提案を聞き、見直しや改善に向けて話し合い運営に反映させている。人事評価システムを導入し、それぞれが設定した目標に向けた自己評価を行い、自らの力量を正しく理解し、より良いケアに繋げるよう努めている。施設長は評価票を基に年2回面談し、職員の要望や意見、悩みなどを聞き、業務や職場環境や処遇に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。派遣の人に入って頂き環境づくりに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。参加者が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回はコロナの為に交流は行っていない。テレワークのみ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしまうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為に前半は難しく後半落ち着いてきたので面会を短時間実施している。	入居時にこれまでの生活歴を入居者や家族から聴き、入居者が大切にしてきた人や場所、物事が続けられるよう支援に努めている。コロナ禍で憩いの家サロンや散歩、買い物、外食などは自粛している。コロナの感染状況を確認しながら家族と自宅に帰ってお正月を過ごしたり、馴染みの美容院に出掛けたり、友人と電話で話すなど馴染みの関係の継続に努めている。また、その方の趣味や日常の洗濯物たたみや食器拭きなど家事仕事の継続支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒にいる場を考え交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所で退所されても状況に応じて相談や情報伝達に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。	事業所目標の「思いやり」を意識して傾聴に努め、それぞれの入居者が一番リラックス出来る入浴時や夜の落ち着いた時間帯、バイタルチェック時の会話の中から希望や意向を聞き、記録に残し、職員間で共有し、ケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなずき、表情や態度などから把握し、本人本位に検討し思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の人数の関係で会議が持てないので申し送り話し合いをして計画や支援の仕方を決めている。	計画作成担当が入居者や家族に意向や希望を聞いたり、医師の往診時にケアマネージャーが立ち合って意見を参考にしたり、タブレットに日常の様子を記録した個別記録を確認しながら、毎月のユニット会議で問題や課題について話し合い情報交換をしている。モニタリングを経て半年毎に医師や看護師など関係者の意見や家族の意向を踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し申し送りで他の職員と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場面がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に交流を実施していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医の受診や往診によって医療を受けられるようにしている。	入居時にかかりつけ医の継続か提携医の往診かの希望を聞いている。内科や歯科は月1回の往診があり、週1回訪問看護師による健康管理も行われている。かかりつけ医の場合は家族の協力を得ているが、困難な場合は職員が付き添い受診をしている。受診後は家族や職員に受診結果を周知しケアにつなげている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間体制で医師や事業所の看護師、訪問看護師、協力医療機関による連携体制のもと、速やかに適切な医療を受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。看取りも行っている。	重度化や終末期、看取りについては、入居時に意向や希望を確認している。重度化する可能性がある場合には、早めに家族に報告し、状況を説明して意向の再確認をしている。状況が変化した場合、医師や看護師、訪問看護師その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように努めている。また職員が看取りに向けてチームで取り組むためにセンター長による医療や介護、メンタルケアなどの勉強会が行われている。コロナ禍であっても、予防対策を取りながら家族と共に看取る体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。	年2回の内1回は消防署の防火設備の点検時と合わせて避難訓練を実施している。昼間・夜間想定で火災や地震の避難訓練を実施し、初期消火訓練や避難誘導、避難経路の確認をしている。消防署から指摘された個所や課題については、運営推進会議やカンファレンスで話し合い改善に向けた取り組みを行っている。備蓄は3日分の水や食料と、懐中電灯やヘルメットなどの備品を用意し、リストを倉庫に掲示している。地域との協力関係は今後の課題となっている。	想定外の災害が起こっている昨今である。地域の防災対策がどのようになっているか、その時事業所はどのような立ち位置にあるかを知ることは重要である。地域の防災訓練に参加するなどしてし情報を収集し、事業所として何ができるか、どんな時にどのような援助をしてほしいかを具体的に検討して地域との協力体制の再構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしていけるように心掛けている。	人生の先輩として個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。職員は、日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いや声のトーンなどに配慮し、「いつ誰が聞いても不快にならない言葉使いや対応」をするように、確認し合いながら支援に努めている。呼び名は「さん付け」に統一し失礼の無いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々の場面で自己決定できるように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしている。たまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えて散髪をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。後片付けでお手伝いできる方はお願いしている。	食材は地元の八百屋から仕入れ、本社管理栄養士による献立を基に、各ユニットで調理方法や量、好み、アレルギーなど考慮し、三食手作りしている。また、苦手な食材や持病で制限のある方には制限食や代替食を用意している。入居者は保有能力に合わせて、食材の下処理や後片付けなどを職員と一緒にやっている。誕生日には希望を聞いてお寿司や饅頭など人気の食事を提供したり、おせち料理や節分、雑祭り、バレンタインデーなどの行事食を楽しんだり、専門店の和菓子をセレクトして抹茶と頂いたりしながら五感でも楽しめるよう工夫したり、職員と一緒に作ったりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状(糖尿病等)によって食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるに健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導で利用者様の動きによってパット使用で夜間ベット上での交換が多くなる。	座位での排泄支援に努めている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、さりげない声掛けやタイミングを工夫してその人にあったトイレ誘導に努めている。夜間も、尿意を感じ自分ですぐトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて続かないように食べ物や水分、医師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出が出来ない分入浴を通して清潔維持し楽しんで頂いている。入浴日を決めて対応者もいる。	各ユニットの浴室には個浴槽が2個備わっている。午後からのゆったりした時間に、状態に合わせて毎日入浴支援をしている。個々の着替えは、毎日夜勤者が籠に入れて準備をしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。足湯をしながら湯の清潔に留意したり、冬季は脱衣室や浴室を暖めてヒートショックに配慮している。季節を感じる、ゆず湯やしょうぶ湯、殺菌作用のあるハーブ湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は2人確認で間違いなく服用する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや食事で何か刺激あるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為に外出できていない。	近くに公園があり緑豊かな環境に恵まれ、天候や体調に合わせて散歩や憩いの家のサロンに少人数づつ出掛けたり、ベランダで洗濯干しをしたりして季節の移ろいを感じながら外気に触れる機会を大切にしているが、コロナ禍により感染を体験したことにより外出規制を余儀なくされ、散歩に出かけることは出来なかった。今後、コロナの状況を見ながら天気の良い日には少人数で季節のお花見に出掛けられることを楽しみにしている。	事業所として外出規制が余儀なくされている事で常態化してしまう事が懸念される。コロナ禍でもできる、ベランダなどを利用して花を育てたり、日光浴をするなどして外気に触れたりするなど、四季の風や花の香りなどを感じて季節の移り変わりが楽しめるような支援について職員で話し合われることを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払した後で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為に電話でお話をしたい場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内で季節感がわかるように飾りつけを行っている。	事務所を中心に左右にユニットが配置されている。明るく広い共用空間はレクリエーションや感染予防などの用途に合わせて机や椅子を移動させている。また、空調管理や不快な臭いや音などもなく快適な環境が保たれている。リビングには、季節の行事の写真や習字や塗り絵などの作品を飾り、それぞれのユニットで思考を凝らした共用空間となっている。余暇の時間には、入居者は好きな書き物やぬり絵をしたり、新聞やチラシを見て談笑したりソファに座ってビデオを見てたりしてゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。	居室には、壁面収納の大きなクローゼットや棚が備え付けられ、空間を広く使えるよう工夫されている。入居者は、使い慣れた筆筒や机などを持ち込み、孫の作品や家族の写真など好みのものを飾って安心して落ち着けるスペースを確保している。ペットの位置や部屋のレイアウトを自由に決めて、それぞれの生活スタイルで居室をコーディネートして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛け本人が理解しやすいように掲示や声掛けをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400160		
法人名	株式会社 ユニマット・リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	半田ケアセンターそよ風 Bユニット		
所在地	愛知県半田市星崎町2-39-2		
自己評価作成日	令和3年年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様が落ち着いて生活できるように会話をしたりレクリエーションを通して生活をしています。今年もコロナウィルスの為外出レクは行えませんでした。室内レクで利用者が楽しんで満足できるようにゲームや体操、美味しい料理を召し上って喜ぶように努めてきました。また毎日の体調の変化に気を付けて医療と連携をしています。リハビリの必要の方は訪問リハビリを実施して機能維持が出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春は桜で有名な刈宿公園が近くにあり、緑豊かで閑静な住宅地の中に事業所が位置している。デイサービスが1階に併設され、2階に2ユニットのグループホームがある。会社の理念、思いやりの三要素「目配り・気配り・心配り」を事務所に併示し、理念を基に事業所の目標を「思いやり」として職員は入居者がいつも笑顔でいられるよう日々のケアに努めている。平常であれば、盆踊りや山車祭りに参加したり朝市や憩の家のサロンに入居者と一緒に出掛けて地域の方と交流したり、事業所の夏祭りにはゲームなどの催し物に地域の方々も参加して交流を深めたり、併設するデイサービスの行事にも参加する機会としているが、コロナ禍で自粛している。また、高校生の体験学習や専門学校生の実習も受け入れ教育の場の提供をしているが踏みとどまっている。現在はコロナの感染状況を確認しつつ再開を望んでいる。調理の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など日常の家事を職員と一緒に楽しみながら行っている。明るくゆったりとしたリビングでテレビを観たり、ゲームをしたり談笑をして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHで理念は決めている。利用者様を「思いやり」をもって接する。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回もコロナの為に交流は行っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協の協力で地域の高齢施設紹介を行っている。ホームページで紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行っていないので状況をお伝えし家族の意見を確認して改善したり実践にむけてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故等で報告して協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて施設の思いを共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて施設の思いを共有し虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人については利用者様の中で該当される方がいらっしゃる。検討している。またわからない方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っているので注意する点があれば職員に周知を促している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見、要望(はがき等)を職員に報告をして反映する様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が時々支援に入り職員の意見に対して提案をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員は厳しい状況であるが職員は頑張っていることは理解されている。派遣の人に入って頂き環境づくりに勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行っている。また法人外での研修は掲示してあれば参加を促している。参加者が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回はコロナの為に交流は行っていない。テレワークのみ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の情報により本人が安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に家族の要望を踏まえて暮らせるようにして関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援で問題が出れば家族と相談し改善していくように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共にやっているが時間がかかってしまうと一方的になってしまうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の様子を細目に伝え職員のみならず家族と共に支援していくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為に前半は難しく後半落ち着いてきたので面会を短時間実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や飲み物等の提供により一緒にいる場を考え交流できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所で退所されても状況に応じて相談や情報伝達に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の意向に沿うようにしている。また状況により限定してしまう事がある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から昔の状況を聞きケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った過ごし方を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の人数の関係で会議が持てないので申し送りで話し合いをして計画や支援の仕方を決めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段と違った様子や行動があった場合は詳細に記録し申し送りで他の職員と共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方にあったサービス提供の為に今まで行っていなかった支援も検討する場合がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に交流を実施していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医の受診や往診によって医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況で気になることがあれば看護師、医師、訪問看護師に伝え指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は病院と連携して情報を流し早く退院できるように連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期をグループホームで迎えるときは家族に相談して医師と連決して対応できるようにしている。見取りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当やAEDの研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震の避難訓練を年2回している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気を付けている。出来るだけわかりやすく生活を過ごしていけるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事でお寿司の選択するとき確認して召し上がることを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく本人のペースを大切にしている。たまに職員の都合で決まってしまう事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洗顔や着替えを行いその人らしいように整えている。また2か月に移動美容院が見えて散髪をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事で美味しく頂けるようにしている。また状況によって形態を変えて摂取できるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状(糖尿病、腎不全)によって食事量や水分量の記録し各自の状況を踏まえて摂取できるように健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。また定期的に訪問歯科がきて診て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の動きによってなるべくトイレ誘導を行い生活リハビリしている。オムツ使用で夜間ベット上での交換が多くなる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックをしていて便秘が続かないように食べ物や水分をチェックして、医師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	外出が出来ない分入浴を通して清潔維持し楽しんで頂いている。行事以外毎日入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が望んでいる時間帯の寝て頂いている。休憩も本人が言われれば休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や居宅訪問薬剤師相談して薬の管理をしている。服薬支援は2人確認で誤薬しない様に服用する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや美味しい食事(お寿司、うなぎ等)で何か刺激あるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為に出来ていない。11月に緩和してきたので朝市の見学する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持できなく施設で立て替えて支払した後で家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為に電話でお話をしたい場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室掃除や布団の乾燥機を行い居心地良い様に務めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になる時間を大切にしている。気の合う利用者様を隣にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の物は持って来て頂き少しでも落ち着ける空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごして頂けるような環境づくりを心掛けご本人が理解しやすいように掲示や声掛けをしている。		